



明るい選挙啓発授業 葛高生が投票を体験

9月8日、葛巻高校（木村基校長、生徒131人）で「明るい選挙啓発授業」が行われ、3年生43人が選挙制度について学びました。県選挙管理委員会事務局は、18歳以上の人に選挙権があることなどをクイズを交えて説明。その後、実際に選挙で使用している道具を使い、模擬選挙を実施しました。大道航さん(3年)は、「若者の投票率が下がっているのは、意識の低さが原因だと知りました。自分から行動することが大切だと思ったので、次の選挙は投票しに行きます！」と力強く宣言していました。

模擬選挙で投票を体験する葛巻高校の生徒たち



いわて環境塾2020 葛巻町の取り組み学ぶ

いわて環境塾2020(岩手県主催)は8月29日、くずまき高原牧場のもく・木ドームなどを会場に開催され、町内外から約60人が参加しました。講座では、地域にあるものを最大限に活用する努力を続けてきた町のこれまでの取り組みに触れながら、北上山系開発が現在の風力発電の整備にもつながっていることや、太陽光発電、森林保全活動などを紹介しました。その後、バイオガスプラントや上外川の風力発電施設などを見学し、本町のクリーンエネルギーの取り組みについて理解を深めました。

バイオガスプラントの仕組みを学ぶ参加者たち

より良い社会実現のため 葛高1・2年生がSDGs学ぶ

高校の魅力化促進事業として行われたSDGsカードゲーム実演会「SDGsから考える地域づくり」は9月8日、葛巻高校の1、2年生85人を対象に行われました。生徒らは「経済」「環境」「社会」に影響するカードを使いながら、より良い社会を実現するための有効な使い道を体感しました。大上悠希さん(1年)は「地産地消やごみの分別など、今の自分ができることを使う責任として、考えるだけでなく実行していきたい」とSDGs(持続可能な開発目標)への理解を深めたようでした。



手持ちカードの有効な使い道を模索する生徒たち

景こころのサポート研修 友だちを思う大切さ学ぶ

8月31日、葛巻小学校（佐藤隆司校長、児童108人）の4、5、6年生を対象に「こころのサポート研修(SOSの出し方教育)」が行われ、未来の風せいわ病院理事長の智田文徳医師が「みんなで生きる」と題して講演しました。講演では、病気にならないための考え方や悩んでいる人への対応の仕方などを分かりやすく説明。子どもたちは「独りぼっちや様子がおかしいと思った人に声を掛けたい」と感想を話し、「人の気持ちを分かろうとすることの大切さ」を再認識していました。



グループごとに出し合った感想を真剣に聞く児童たち

若者・高校生検討部会 探索し町の良さ再発見

くずまき型DMOの「若者・高校生検討部会」は9月13日に開催され、葛巻高校生16人を含む24人がまちなかを探索し、「住みたくなるまち」の実現を目指して、町の良さを発見する「宝探し」を行いました。参加者たちは、4つのグループに分かれて、気になるポイントを撮影。写真を地図にまとめ、印象に残った理由を発表しました。秋山一さん(1年、神奈川県出身)は「町の新たな発見があり、今まで以上に興味深くなりました」と意欲的に取り組んでいました。



まちなかの気になるポイントを地図に書き込む部会員らと講師の広田純一さん(円内)



点字で書かれた文章を指先を使って読み取る児童たちと講師の佐賀善司さん(円内)

江小で子ども福祉教室 点字の読み書きを学ぶ

江川小学校（越智秀樹校長、児童29人）の子ども福祉教室は9月11日、同校3、4年生10人を対象に行われ点字の読み、書きを学びました。講師は、岩手県視聴覚障がい者情報センターの佐賀善司さん。児童らは、6つの点で文字をつくる点字の仕組みや約束事を確認し、指先を使って文章を読んだり、点字器を使って自分の名前を書いてみました。山下悠翔さん(4年)は「点字器を使って自分の名前を打つところが楽しかったです」と関心を寄せていました。